



学生実験



海外での調査

*Department of Civil and Environmental Engineering*

# 工学課程 工学専攻 環境社会基盤工学分野

環境社会基盤工学課程・専攻

<https://cee.nagaokaut.ac.jp/>

〒940-2188 新潟県長岡市上富岡町1603-1

E-mail : toiwase-ce@ml.nagaokaut.ac.jp



計算機実習



測量実習



長岡技術科学大学  
Nagaoka University of Technology



# 工学課程（環境社会基盤工学分野）、環境社会基盤工学課程の概要

昭和51年、開学と同時に建設工学課程は設置されました。その後、環境に関連する諸問題が社会的にクローズアップされるようになったことから、平成6年に、建設工学課程に含まれていた、計画、水処理、気象などの環境問題に関わる分野に、生物、化学の関連分野を加え、環境システム工学課程が創設されました。近年に至り、社会基盤構造物の構築に重点を置いてきた建設工学は、サステナブルな社会への貢献や巨大大自然災害への対応等、国土強靱化においてより大きな役割を担うようにパラダイムシフトが求められるようになりました。こうした社会的要請を受けて、平成27年に、建設工学課程と環境システム工学課程の建設工学分野に関連した専門領域を統合するとともに、近年必要性が増大している新たな専門分野を加えることにより、従来の建設工学分野を強化・拡充した環境社会基盤工学課程（現在の工学課程（環境社会基盤工学分野））が設立されました。

工学課程（環境社会基盤工学分野）、環境社会基盤工学課程は、社会構造や経済活動の変化、および急速なグローバル化が進む今日において、人類の健全な社会・文化・経済活動を支える社会基盤施設を環境と調和しながら適切に計画・設計・建設・維持するための、専門学術の基礎と総合的視野を有し、グローバルな視点から、サステナブルな社会への貢献、巨大大自然災害への対応ができる実践的・創造的能力を備えた指導的技術者・研究者を育成することを目的としています。

## 研究室の研究テーマと教員の専門分野



地盤工学研究室



交通工学研究室



都市計画研究室



鋼構造研究室



コンクリート研究室



都市交通研究室



水圏防災工学研究室



環境防災研究室



地震工学研究室



防災・復興  
システム工学研究室



水文・気象研究室



水圏土壌環境研究室



資源エネルギー循環工学  
研究室

研究室の研究テーマとそれを担当する教員の専門分野は、環境社会基盤工学分野の教育と研究に関連する、様々な技術領域に及んでいます。

### ◆社会基盤デザイン

|                           |                           |
|---------------------------|---------------------------|
| 《地盤工学》地盤の変形と破壊、地中構造物      |                           |
| 豊田 浩史                     | 地盤工学                      |
| 《交通工学》道路の計画・設計・施工・維持管理全般  |                           |
| 高橋 修                      | アスファルト混合物、その他舗装材料         |
| 《都市計画》地方都市を対象とした都市計画、環境計画 |                           |
| 松川 寿也                     | 都市計画（土地利用計画、農山村地域の土地利用制度） |
| 丸岡 陽                      | 都市計画（都市基本計画、都市構造分析、住環境評価） |

### ◆社会基盤マネジメント

|                                 |                         |
|---------------------------------|-------------------------|
| 《鋼構造工学》鋼系橋梁の開発、維持管理・診断技術の開発     |                         |
| 岩崎 英治                           | 構造工学、構造解析学、計算力学         |
| 《コンクリート》コンクリート構造物の設計、施工、維持管理    |                         |
| 下村 匠                            | コンクリート材料、鉄筋コンクリート構造     |
| 中村 文則                           | 数値シミュレーション、流体力学         |
| 《社会システムマネジメント》交通計画、物流計画、行動モデル分析 |                         |
| 佐野 可志                           | 交通シミュレーション、交通とまちづくり     |
| 加藤 哲平                           | 交通ネットワーク分析、費用便益分析、交通流理論 |

### ◆防災システム

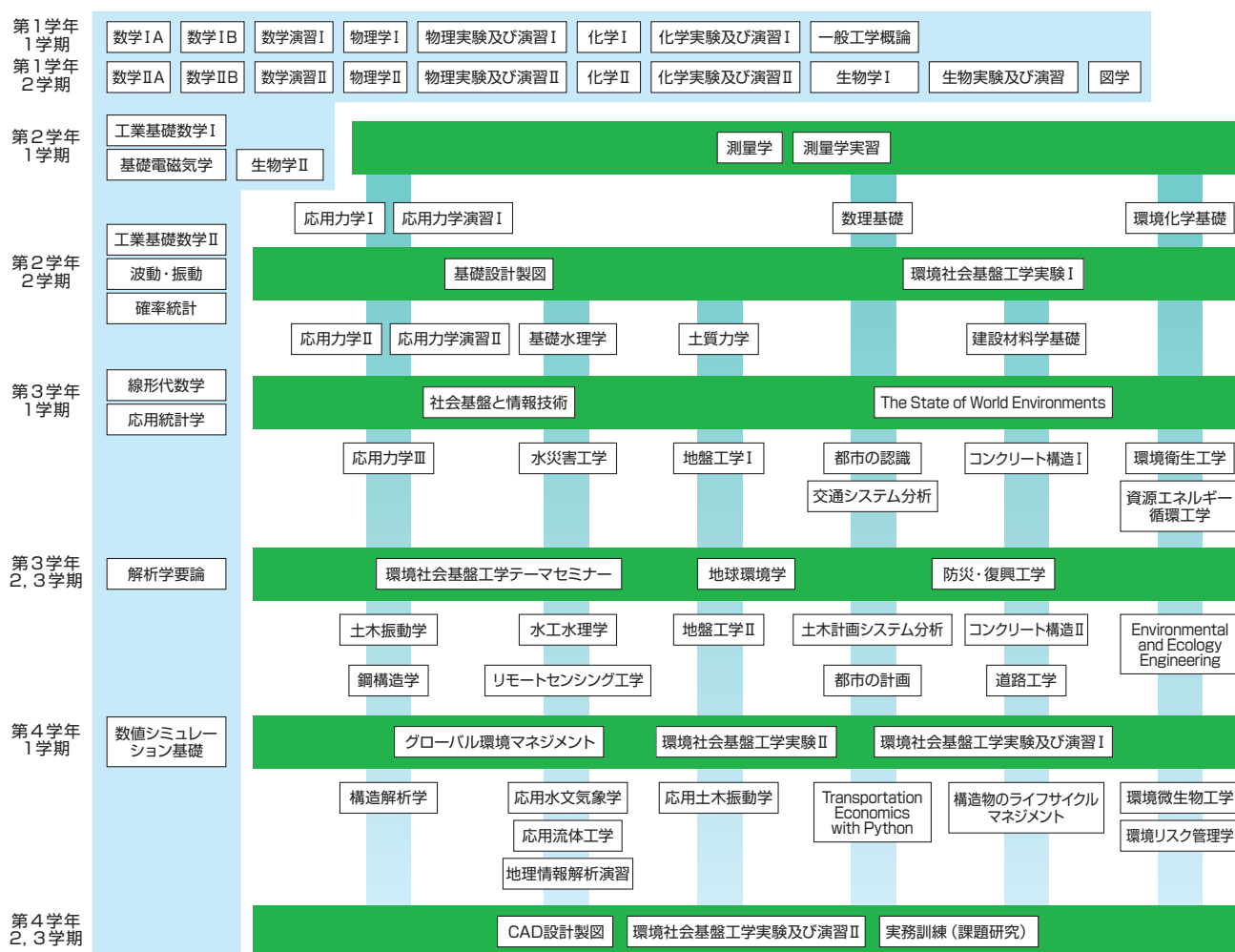
|                             |                     |
|-----------------------------|---------------------|
| 《水圏防災工学》流体力学に基づく自然現象の解明     |                     |
| 細山田 得三                      | 水工学、流体力学、沿岸海洋学、海岸工学 |
| 犬飼 直之                       | 水工学、沿岸海洋学、海岸工学      |
| 《環境防災》地盤災害の機構解明と防災          |                     |
| 大塚 悟                        | 地盤工学、防災工学           |
| 福元 豊                        | 地盤工学                |
| 《地震工学》地震被害の解明と災害軽減マネジメント    |                     |
| 池田 隆明                       | 地震工学、耐震工学           |
| 志賀 正崇                       | 地震工学、地盤工学           |
| 《防災・復興システム工学》リモートセンシング・地域防災 |                     |
| 高橋 一義                       | リモートセンシング工学         |
| 坂田 健太                       | リモートセンシング工学         |

### ◆環境マネジメント

|                                  |                    |
|----------------------------------|--------------------|
| 《地球環境工学（水文気象）研究室》環境問題、環境現象のモデリング |                    |
| 陸 旻皎                             | 水文学、河川工学、水資源工学、雪氷学 |
| 熊倉 俊郎                            | 気象学、雪氷学、気候学        |
| 太田 朋子                            | 環境放射能、地下水年代測定      |
| 楊 宏選                             | 流体力学、水工学           |
| 《水圏土壌環境工学》水圏土壌環境の制御・保全技術の開発      |                    |
| 山口 隆司                            | 環境工学、環境衛生工学、水質分析   |
| 幡本 将史                            | 環境工学、環境微生物学        |
| 渡利 高大                            | 環境工学、環境衛生工学        |
| 《資源エネルギー循環工学》資源リサイクル技術の開発・評価     |                    |
| 小松 俊哉                            | 環境衛生工学、環境安全管理学     |
| 姫野 修司                            | 環境工学、化学工学、化学分析     |

# 工学課程（環境社会基盤工学分野）、環境社会基盤工学課程の教育内容

工学課程（環境社会基盤工学分野）、環境社会基盤工学課程のカリキュラムは、従来の建設工学に加え、ハード・ソフト両面を有する環境関連分野の強化・拡充を図ることにより、環境社会基盤工学全般の基礎的な知識を修得するとともに、次第に興味ある専門分野を深く学習出来るように構成されています。各科目の相互関係は下図の通りで、第1学年と第2学年時に開講される専門科目は、環境社会基盤工学の基礎となるものです。第3学年と第4学年時には、分野を問わず履修すべき科目の他、各分野の専門が系統的に学べるように分類されています。多種多様な科目が提供されておりますが、選択履修によって、総合的にグローバルな視点で学んだり、ある分野に特化して多くの専門科目を習得したりできるように配慮されています。



## 災害から人々を守り、持続可能でレジリエントな社会構築へ

工学課程（環境社会基盤工学分野） 主任 豊田 浩史

私たちが文化的で人間らしい生活を営むために、社会基盤施設を適切に計画・設計・施工・維持することが重要です。我々はこれまで整備されてきた社会基盤施設を引き継ぎ、課題を解決し、次世代に引き渡す必要があります。社会基盤整備で利用される様々な材料に対する特性把握、水処理技術の開発、各種シミュレーション技術の構築、ICTを利用したモニタリングによる防災システムの高度化、ビッグデータやAIを用いた将来予測など取り扱う範囲は多岐にわたります。この社会状況に対応するため、工学課程（環境社会基盤工学分野）では、多様なカリキュラムと実践的な教育・研究体制を提供しています。基礎学力と高度な専門知識を保有し、新しいデジタル技術を柔軟に取り入れることができるグローバルな視点を持った技術者を育成し、イノベーションを世界へ発信する研究開発拠点となることを目指します。



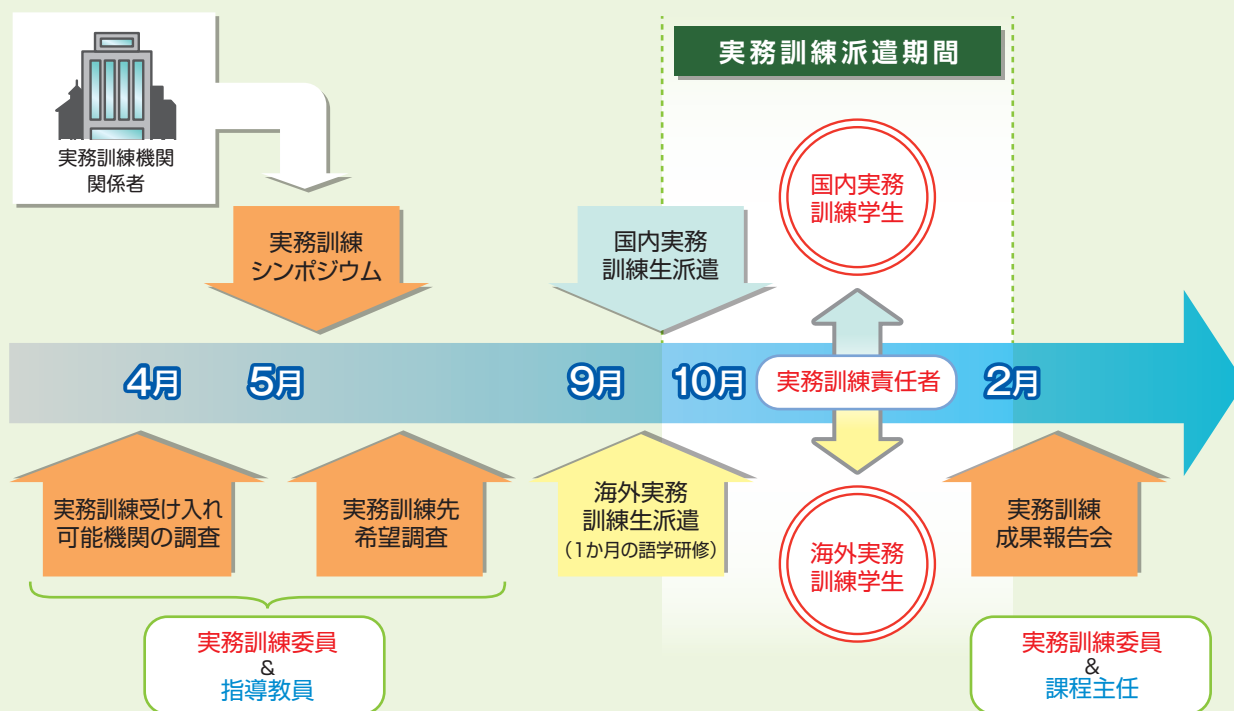
## 実務訓練

本学の大学院修士課程への進学が内定している4年生は、10月から2月までの約5ヶ月間、企業・官公庁等において8単位の必修科目として実務訓練を履修します。これは、実社会で活動する人々と交わり、自らもその活動に参加することにより、「技術に対する社会の要請を知り、学問の意義を認識するとともに、自己の創造性発揮の場を模索すること」および「実践的・技術感覚を養うこと」を目的としています。実務訓練での経験や成果をもとに、大学院での研究活動や就職に対する基礎事項を認識し、将来の技術の創造展開や自らの人生設計に大きく役立たせようとするものです。（コロナ禍で、令和2～4年度は実施を1ヶ月遅らせて11月より派遣をはじめましたが、令和5年度より通常の実施期間に戻りました。）

近年では、グローバルに活躍できる技術者の育成を意識して、就学期間に外国に身を置いて国際感覚を涵養できるように、海外にも学生を派遣しています。派遣先は学術交流協定を締結している大学が多いですが、日本企業の海外部門や現地企業等へも範囲が広がっています。平成29年度は9名、平成30年度は11名、令和元年度は10名が海外で実務訓練を行いました。（コロナ禍で海外実務訓練は、令和2年度は中止、令和3年度はオンラインのみの実施となりましたが、令和4年度より派遣を再開しました。）

工学課程（環境社会基盤工学分野）、環境社会基盤工学課程の実務訓練の日程は下図のとおりで、4月から準備が始まり、実務訓練終了後には成果報告を行って、単位認定が審査されます。派遣先としては、課程の特徴を反映して、製造業よりも官公庁・建設業・コンサルタントの比率が高くなっています。最近における派遣先のリストは下記のとおりです。

### 工学課程（環境社会基盤工学分野）、環境社会基盤工学課程の実務訓練の日程



#### 国内実務訓練先 令和4・5年度実績（一部抜粋）

エコー、エックス都市研究所、NJS、NCE、オリエンタルコンサルタンツ、オリエンタル白石、海上・港湾・航空技術研究所、産業技術総合研究所、カネカ、基礎地盤コンサルタンツ、キタック、KUNO エンジニア、建設技術研究所、三機工業、大日本コンサルタント、太平洋セメント、千代田コンサルタント、ドーコン、東亜道路工業、中日本航空、長大、日水コン、日本気象協会、日本建設機械施工協会施工技術総合研究所、日本工営、日本道路、ニュージェック、バシフィックコンサルタンツ、パスコ、ピーエス三菱、復建エンジニアリング、前田建設工業、三菱電機先端技術総合研究所、八千代エンジニアリング、ユーデック、横河ブリッジホールディングス

#### 海外実務訓練先 令和4・5年度実績（一部抜粋）

ハノイ工科大学（ベトナム）、コンケン大学（タイ）、アジア工科大学（タイ）、モンドラゴン大学（スペイン）



# 就職・進学

## ◆就職

長岡技術科学大学の就職率は、「大学就職率ランキング」において、平成27年度には全国第1位になるなど、開学以来、高い水準を維持しております。就職活動をどのように始めればいいのか？どんな準備が必要なのか？そんな基本的な疑問を解決するために、事前にしっかり準備し、安心して就職活動ができるよう「就職ガイダンス」、希望者全員に対する「模擬面接」、本学学生を採用したい企業の担当者と直接面談できる「学内合同企業説明会」等を実施しています。また、工学課程（環境社会基盤工学分野）、環境社会基盤工学課程では、独自の同窓会組織を活用し、就職活動の支援をしております。このような取り組みの成果として、全国的に就職率の高い本学の中でも、工学課程（環境社会基盤工学分野）、環境社会基盤工学課程は就職に最も苦労しない分野と言われております。

日本経済新聞社と日経HR（Human Resources）が、上場企業の人事担当者を対象に実施した大学のイメージ調査によりランキングされた「価値のある大学2017年版 就職力ランキング」に本学が掲載されました。このランキングは、「行動力」、「対人力」、「知力・学力」、「独創性」の4項目の平均点で計算されていますが、本学はいずれの4項目でも上位3位以内、総合ランキングで1位にランキングされました。中でも、「主体性がある」という行動力を構成するサブ項目の評価は、全国1位と、非常に高い評価を人事担当者からは得ております。これは、学部から大学院修士課程まで一貫したプログラムの下、実験・実習を主体として、自らものを創り出す能力の開発を進めていることや、学部4年の2学期から、企業、官公庁等で実施している実務訓練（5か月の長期インターンシップ）の成果だと考えております。

## ◆進学

学部学生の約8割が修士課程に、修士課程学生の約1割が博士課程に進学します。なお、通常修了に5年間必要な修士課程と博士課程を、最短で3年間で修了することが可能なプログラムが、平成27年度から開始されました。

平成28年度～令和5年度

### 就職先（一部抜粋）

【官公庁・独立行政法人】：国土交通省、防衛省、法務省、都市再生機構、鉄道建設運輸施設整備支援機構、土木研究所、東京消防庁、新潟県、東京都、北海道、千葉県、埼玉県、群馬県、和歌山県、広島県、島根県、香川県、岡山県、富山県、新潟市、長岡市、弘前市、墨田区、横浜市、神戸市、大阪市、高崎市、みどり市

【電力・石油・ガス】：東京電力HD、東北電力、北海道電力、日本原燃、北陸ガス、昭和電工ガスプロダクツ、日本天然ガス、大陽日酸、三井石油、東京ガスパイプネットワーク、東京水道

【運輸・通信】：JR東日本、JR東海、JR西日本、JR四国、JR北海道、東日本高速道路、中日本高速道路、西日本高速道路、首都高速道路、阪神高速道路、東京メトロ、相模鉄道、NTTデータ、NTT研究所、富士フィルムロジスティクス

【建設業】：鹿島建設、大成建設、大林組、清水建設、五洋建設、戸田建設、前田建設工業、フジタ、三井住友建設、安藤ハザマ、西松建設、奥村組、東亜建設工業、佐藤工業、飛島建設、銭高組、藤田建設工業、大石組、福田組、植木組、本間組、加賀田組、第一建設工業、交通建設、日揮プラントイノベーション、TSUCHIYA、東鉄工業、ピーエス三菱、千代田化工建設

【橋梁・鉄構・機械・製鉄】：川田工業、IHIインフラシステム、JFEエンジニアリング、IHI運輸機械、日立パワーソリューションズ、三井造船鉄鋼エンジニアリング、日鉄住金テックスエンジ、コロナ、大原鉄工所、栗本鐵工所、三菱化工機、ツガミ

【プラント・エンジニアリング】：三機工業、日揮、オルガノ、高砂熱学工業、日立プラントサービス、クボタ

【道路】：NIPPO、日本道路、東亜道路工業

【コンサルタント】：建設技術研究所、八千代エンジニアリング、大日本コンサルタント、国際航業、パスコ、日本工営、パシフィックコンサルタンツ、オリエンタルコンサルタンツグローバル、玉野総合コンサルタント、日水コン、ネクスコ東日本エンジニアリング、JR 東日本コンサルタンツ、東電設計、ドーコン、開発技建、極東技工コンサルタント、ネクスコ・エンジニアリング新潟、NEXCO 西日本コンサルタンツ、応用地質、九州開発エンジニアリング、昱、中日本ハイウェイ・エンジニアリング東京、西日本高速道路メンテナンス関西、エンバイオ・エンジニアリング、JPOWER設計コンサルタント、日建設計、日鉄パイプライン&エンジニアリング

【情報・システム】：JFEシステムズ、ウェザーニューズ、日立ビルシステム、日本気象協会、アイ・トランスポート

【その他】：太平洋セメント、住友大阪セメント、宇部興産、ユニ・チャームプロダクツ、藤村クレスト、東芝ホームテクノ、日立造船、宇宙技術開発、ハードオフコーポレーション、日本駐車場開発、第四銀行、エヌエスアドバンテック、ホクレン農業協同組合連合会

## 在校生からのメッセージ

### 海外実務訓練で得られた経験

藤本 泰地 (木更津高専 環境都市工学科)  
令和3年度 環境社会基盤工学課程入学

長岡技術科学大学の特色の一つである実務訓練プログラムは、長期間にわたり海外の企業や研究機関で実習をすることが可能です。私もこのプログラムに参加し、約4ヶ月間、ベトナムのハノイ工科大学で天然ゴム製造工程の廃水処理に関する研究を行いました。初めての海外渡航で、新しい環境に戸惑いましたが、この経験は非常に貴重でした。

最初は英語でのコミュニケーションに苦労しましたが、簡単な英単語や図を活用してコミュニケーションを努力し、徐々に意思疎通能力が向上しました。この実務訓練を通じて、言葉が通じない状況での柔軟な対応力が養われました。さらに、海外の環境問題に触れる機会があったことから、自身の研究についての理解が深まりました。

このような経験は、自身の国際的なキャリアを検討する契機となり、進路選択の幅を広げることができました。少しでも海外で働いてみたい、行ってみたいと考えている方には、ぜひ海外実務訓練に参加をおすすめします！



### 就職活動の強みとなる実務訓練

菅原 あいり (苫小牧高専 環境都市工学科)  
令和2年度 環境社会基盤工学課程入学

長岡技術科学大学は大学院まで一貫したカリキュラムが組まれており、3年次編入者は4年間、1年次入学者は6年間という長い期間を長岡で過ごすことになります。大学院に進学する予定の学生は、学部4年時に約5ヶ月間の実務訓練（長期インターンシップ）を行います。この長期間社会に出るという体験を学生のうちに経験できることは大学生生活や就職活動、就職後も必ず強みになり、他大学にはない、長岡技術科学大学の魅力的なカリキュラムであると感じました。特に就職活動にて必要な学チカ（学生時代に力を入れたこと）はエントリーシートに記載するケースが多く、物事に取り組む姿勢や思考力、解決力を判断するために多くの企業が必ずといっていいほど聞いてくる頻出質問の1つであり、実務訓練はいいアピールポイントとなります。また、実務訓練中は幅広い年齢層の方と仕事をすることもあり、コミュニケーション能力も磨かれるため、将来の進路がはっきりしていない方にもおすすめです。



### 専攻科から大学院へ進学して

小林 倫 (長岡高専 環境都市工学科)  
令和4年度 環境社会基盤工学専攻入学

私は長岡高専専攻科から長岡技術科学大学大学院に進学しました。専攻科から大学院へ進学する利点の一つは、長期にわたって研究に取り組めることです。専攻科から進学する場合、高専で3年、大学院で2年の計5年間、研究に携わることになります。一つ分野を極めるという選択も、全く異なる分野を選び、幅広い知識を身に付けることもできます。私は高専時代、橋梁の維持管理について研究していました。しかし、新しいことへ挑戦したいという思いがあり、現在は環境防災研究室に所属し斜面防災についての研究に取り組んでいます。一から勉強することは大変ですが、少しずつ知識が身についたり、できなかったことができるようになったりと、成長を実感できる喜びがあります。また、学会に参加する機会が多いことも専攻科から大学院へ進学する利点です。資料の作成や人前での発表といった経験は社会に出ても必ず役に立ちます。専攻科で進学か就職か悩む人も多いと思いますが、将来を見据えて悔いのない選択をしてください！





## 在校生からのメッセージ

### 長岡技術科学大学のおかげで世界的な友達ができる

ガーンサオウワン ビー (舞鶴高専 建設システム工学科)  
令和3年度 環境社会基盤工学課程入学

私はラオスから来た留学生のKANGSAOVANGBEEと申します。2017年に来日して、東京で1年間、様々な国から来た留学生達と一緒に日本語を勉強しました。2018年から2021年の3年間、舞鶴高専の建設システム工学科で勉強し、多くの日本人の友達ことができました。2021年に長岡技術科学大学の3年次に編入し、現在は長岡技術科学大学の大学院に進学して勉強を続けています。私は高専で3年間過ごしたので、高専のルールや生活習慣がある程度理解できます。周知のとおり、長岡技術科学大学の学生の8割は高専出身で、似た境遇であることから高専出身者とは話やすく、またお互いの気持ちがよくわかるため友達を作りやすいです。加えて、長岡技術科学大学には留学生がたくさんおり、専門的な知識を勉強できるだけでなく、外国の文化について学び、英語で会話をする機会にも恵まれることから、世界中の人々と知り合うことができます。

私はコロナ禍の蔓延時に長岡へ来ました。学生がマスクを着用し、お互いの顔が見にくく、また顔を合わせられないのは悲しいことです。コロナ禍が早く終わり、私たちの笑う顔を見せられることを願っています。



### 実務訓練の魅力

福原 涼斗 (長野高専 環境都市工学科)  
令和3年度 環境社会基盤工学課程入学

長岡技術科学大学では、大学院に進学する予定の学生は、学部4年の冬季期間に数か月間の実務訓練(長期インターンシップ)を行います。

私は、3か月半にかけて静岡県にある研究所で実務訓練をさせていただきました。実施した内容としては、試験補助、報告書の整理、現地調査があり、普通のインターンシップでは経験することのできない実務に近い業務を行うことができました。中でも、試験補助の業務は、計測機器の原理やデータの取り扱い方など学びになることが多く、非常に良い経験をさせていただきました。

実務訓練は、実際の業務を行うことで、社会人として活躍するために必要なことは何かを学ぶことができます。私は、この実務訓練を通して、コミュニケーションの仕方を学ぶことができ、また将来の自分のキャリアについてもよく考える機会となりました。実務訓練を通して得たものは、後の大学院生活や就職活動で必ず役に立つものばかりです。皆さんも長岡技術科学大学に入学した際は是非実務訓練を経験してみてください。



### 仲間と共に成長出来る場所

渡邊 尚幸 (長岡向陵高校 普通科)  
平成31年度 環境社会基盤工学課程入学

長岡技術科学大学では、工学部だけの大学であるため編成人数がとても少ないです。また試験や課題もきちんとこなし、1年次入学者は3年次入学者が高専で学んできていることを短期間で修めなければいけないため学生生活は決して楽なものではありません。

しかし、人数が少ない分同じ学科の友人との絆は深まり、1つのチームのように互いに切磋琢磨しながら成長できる場でもあります。1年次入学者にとって3年次入学者の数はとても多く、肩身の狭い思いをすることもあるかもしれません。しかし、交友関係を深めることで今まで得られなかった知見を得たり、大学院での研究に向けたより専門的なことを吸収したりすることができます。もちろん3年次入学者の方も今まで付けてきた知識をより深く学べるので大学院での研究にも大きく役立つと思います。遊ぶ時間よりも勉強している時間が多く大変な時もありますが、少ない人数だからこそ得られるものもたくさんあります。仲間たちと楽しい学生生活を送りたい方はぜひ本学へ来てください。



# オープンハウス

長岡技術科学大学では、全国の高等専門学校の学生を対象に、大学の施設・設備および教育研究分野に関する情報提供を行い、大学における体験学習（インターンシップ）の一助とすることを目的に、オープンハウスを実施しています。実施期間は毎年8月中旬から9月上旬までの5日間、または10日間で詳しい日程は研修テーマによって異なります。

## ●最近の研修テーマ

- 将来（20年後）を想定した魅力的なまちを実現するための「都市計画」を考える
- 実験から地盤の液状化現象を理解しよう
- カメラ・LiDARで体験する3D計測
- 廃棄物系バイオマスからのエネルギー回収技術
- 鋼トラス橋の設計演習
- 大河津分水の土木史と令和の大改修
- 環境保全バイオリアクター技術開発と環境微生物の新規観察手法の習得
- ミクロ交通シミュレーターを用いた渋滞緩和施策の評価
- デジタル空間を利用した社会基盤構造物の維持管理
- 粒状体から考える地盤挙動の実験と可視化

## ●申し込みおよび問合せ先

長岡技術科学大学 総務部 大学戦略課 高専連携係

TEL:0258-47-9026 FAX:0258-47-9020

E-mail: kosen-renkei@jcom.nagaokaut.ac.jp

HP: [https:// www.nagaokaut.ac.jp/kyoiku/kyoiku\\_koryu/openhouse.html](https://www.nagaokaut.ac.jp/kyoiku/kyoiku_koryu/openhouse.html)

# 入試情報

長岡技術科学大学では、普通高校や工業高校等からの入学試験に加えて、高等専門学校、短期大学及びこれらと同等の教育機関を卒業又は卒業見込みの学生を対象に、第3学年への編入学試験を行っています。種別として、推薦入試、学力入試があります。また、高等専門学校専攻科修了見込みの学生を対象にした大学院修士課程への推薦入試も行っています。

## <特待生制度>

全国高専の卒業生等から特に優秀な学生を選抜し、大学院博士後期課程までの一貫教育によって優れた実践的・創造的能力を備え国際的に通用するVOSの精神を備えた指導的技術者・研究者を養成することを目的に、入学科や授業料が免除される各種の特待生制度が設けられています。（推薦入試合格者対象特待生と在学生対象の特待生があります。）

## 第3学年入試日程

| 入試区分                |          | 募集人員 | 選抜方法                      | 出願期間 | 試験期日               |
|---------------------|----------|------|---------------------------|------|--------------------|
| 推薦入試<br>(外国人留学生を含む) |          | 23人  | 書類審査<br>(外国人留学生は書類審査及び面接) | 5月上旬 | 面接(外国人留学生)<br>6月上旬 |
| 学力<br>入試            | 一般入試     | 24人  | 学力試験及び面接                  |      | 6月下旬               |
|                     | 外国人留学生入試 | 若干人  |                           |      |                    |

※上記の出願期間及び試験日程は目安であり、詳細については下記により確認又はお問い合わせください。

## ●問合せ先

### 長岡技術科学大学入試課入学試験第1係

TEL:0258-47-9271、9273 FAX:0258-47-9070

E-mail: nyushi1@jcom.nagaokaut.ac.jp

HP: <https://www.nagaokaut.ac.jp/nyuushi/index.html>

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。